

令和5年度 第2回美濃加茂市上下水道事業経営審議会会議録 概要

【日 時】 令和5年1月30日（火曜日）14：00～15：40

【場 所】 美濃加茂市生涯学習センター202会議室

【出席委員】 敬称略

竹内 信仁 能島 暢呂 西田 憲幸 佐藤 幸一
山岡 富美 高橋 邦彰 奥野 弘基 佐古 恵子

【美濃加茂市】 建設水道部長 西田 恒夫

【事務局】 上下水道課長 櫻井 英樹 経理係 新名 隼也

【傍聴者】 なし

【会議内容】

1 開会

建設水道部長あいさつ

昨年の夏は猛暑であったが、美濃加茂市では台風や豪雨などの大きな災害も無く、インフラを管理する者としては穏やかに年末を迎えたが、元日に発生した能登半島地震では、当初、美濃加茂市も震度4（後に震度3に訂正）と発表され、急きょ体制を整え情報収集に努め、各施設、道路、橋梁、公園などに支障は発見されず、ひと安心した。

翌日2日から、日本水道協会などの各種団体から災害復旧、復興支援の派遣要請が次々と入るようになり、市長の了解も得て、3日から職員を応急給水活動のため富山県に派遣、その他にも避難所運営などに協力しており、今後も積極的に支援していく。後ほど会議の終盤に、詳細をご説明させていただく。

本日は、下水道事業の概要、水道及び下水道事業の令和4年度決算、経営戦略に関する事項についてご説明をさせていただくので、お時間を頂戴したい。

2 会長あいさつ

北陸地方に甚大な被害をもたらした能登半島地震では、ライフラインにも大きな被害を被っており、石川県によれば、復旧の目途は2月末から3月末とまだまだ時間がかかるようで、皆さんも災害の備えの必要性について改めて考えさせられたのではないかとと思う。今回は、前回に続いて下水道事業の勉強会と令和4年度の上下水道事業の決算説明が主な内容となるが、下水道事業経営戦略の改定についても紹介があるようなので、本日もよろしく願いたい。

※以降、竹内会長が「議長」となり、会議を進行。

3 議事（説明事項・報告事項）

（1）前回議事録の確認について（報告事項）

事務局より、資料2「令和5年度 第1回美濃加茂市上下水道事業経営審議会会議録概要」について、能島委員及び西田委員に内容を確認していただき、会議録署名者として署名いただいたことを報告。

(2) 下水道事業の概要について ～下水道事業【概要編】～

事務局より、資料3「～下水道事業【概要編】～」の15ページ以降について、説明。

《質疑応答（抜粋）》

(委員) 18ページの「有収率」は、他の市と比較するとどうか？施設の布設年次と経過年数とか、例えば5ページでは、色々と区域が分かれているが、古いところの有収率が低くなってしまったりとか、相関はあるのか？

(事務局) 有収率を近隣他市と比較したデータは、手元に無いのですがすぐには分からないが、そんなに高くはない。下水道は雨水が不明水として下水道管の中に入ってくるので、有収率は80%くらいになってしまう。

最初に汚水管渠の工事を始めたのが太田地区などの当時の人口集中地区で、そういった地域から順に古くなる。平成元年から18年くらいの短期間に集中して工事しており、今後、改修の必要性が順に生じてくるというのが27ページのグラフになっている。平成の半ば頃から止水性の高い部材が開発され、工法も変えているが、農業集落排水事業は山間地域が多く管路延長も長い。マンホールも多く水が入りやすい。汚水量が少なく使用料も少ないが、不明水割合が大きいという傾向がある。そのため、全市を区画分けし、不明水対策を順次行っている。

(委員) 19ページの表を見ると、農集の汚水処理原価が他と比べると2倍以上と高く、使用料回収率も35%と低いですが、理由は何か？

(事務局) 農業集落排水は、合併処理浄化槽の大きなものというイメージ。人口規模に比べて維持費用が大きく、使用料回収率が低くなる。3ページの表に公共下水道と農業集落排水の計画処理人口と計画面積を記載しているが、農業集落排水は効率が悪い。

(委員) (農集の) 分担金を極端に上げることは不可能か？

(事務局) 分担金は建設にかかった費用を負担するもの、使用料は維持管理費を負担するものなので、考え方が違う。維持管理費にお金がかかるからという理由で受益者分担金を上げるのは難しい。

(委員) この計画処理人口が作られた時と現在では、どれくらい違うのか？

(事務局) 公共下水道は3ページの計画処理人口が46,430人、9ページの令和3年度供用開始済人口が45,608人であり、1,000人弱の違いがある。農業集落排水は3ページの計画処理人口が4,860人、9ページの供用開始済人口が2,717人であり、約半分と計画に対し人口が少ない状況になっている。

(委員) 人口が減れば、当然コストも上がる。半分となれば、かなり負担も重くなっていると認識しておく必要がある。

(委員) 農業集落排水の稲辺クリーンセンターは、蜂屋川クリーンセンターの近くにあるが、独立して建設した意味は？

(事務局) 4ページにあるとおり、稲辺クリーンセンターは平成6年3月に供用開始しており、蜂屋川クリーンセンターは平成16年3月に供用開始している。稲辺地区については、10年早く農業集落排水を先行した。

(委員) 先ほど、企業債の借入れによって平準化を図るという話と平成元年

から18年に集中した下水道布設が耐用年数の50年後にまた集中するという話があったが、50年ずつ同じサイクルを繰り返すのか？耐用年数前に布設し直して平準化を図るということはないのか？

(事務局) 同じサイクルを繰り返すのは大変なので、毎年費用が同じになるように平準化するのが今後の課題。耐用年数の近いものを更新したり、耐用年数を超えて使ったりということも必要になる。経営戦略やストックマネジメント計画の中で検証していく。

(3) 令和4年度の水道事業及び下水道事業決算について

事務局より、資料4、5「令和4年度水道(下水道)事業会計決算概要・決算概要図」について説明。

《質疑応答(抜粋)》

(委員) 損益勘定留保資金とはどのような資金か？一般の企業会計の自己資本とは違うのか？その損益勘定留保資金は、どれくらいあるのか？

(事務局) 主に減価償却費などの現金を伴わない収支であり、内部留保資金と言った方が分かり易いかもしれない。水道事業は10億円を超えるくらい、下水道事業は7千万ほどになる。

(委員) 下水道事業の7千万円で、収支不足額が6億1千万となっているが、内部留保資金以外でも補てんするということか？

(事務局) 決算概要図で言うと、黄色で示してある①、②、③の合計が全て内部留保資金であり、その年に発生する内部留保資金も全て補てんした後に残る内部留保資金が7千万円となる。

(委員) 水道も下水道も電気代の高騰の影響がかなりあると思うが、下水道は営業努力で前年並みの利益が確保できたと説明があったが、その内容や水道はできない理由は？

(事務局) 電気料は水道も下水道も例年の約2倍と同じように高騰したが、水を作るためにより電気代がかかることと、下水道事業では修繕費用などが抑えられたため。

(委員) 新電力の破綻とかの影響は無かったか？

(事務局) 新電力との契約ができず、中部電力の最終保障契約に変わり電気代が高くなったが、現在は通常の契約ができるようになったため、少し落ち着いている。施設の動力として使う部分の影響は大きかった。

(4) 下水道事業経営戦略の改定について

事務局より、資料6「美濃加茂市下水道事業経営戦略の改定について」について説明。

《意見・質疑応答(抜粋)》

(委員) 有収率の向上では、改善効果は多分期待できない。抜本的に改革するには民間委託が手っ取り早い。PFIなど、具体的に考えたことはあるのか？

(事務局) 処理場の関係もあって、民間一括委託は難しいが、委託できることを考えていく必要がある。

新しく施設を造る時は維持管理を含めて委託ということもありうるが、現有施設の維持や管路も含めてとなると、更新費用も発生するので難しい。

(委員) 公共、特環、農集では、かなり稼働率が違うのでは？人口が半減した農集に民間委託をやっても誰も手は上げない。農集だけ切り離すこともできないし、市として3つを一体として運営していかないと住民の合意は得られない。大きな問題は、農集をどうするかにあると思う。

(委員) 農業人口が減っている中で、農業従事者を色々な方法で増やすことも考えられるが、宅地化により美濃加茂市の昔の田畑の風景は山手の方はほとんど無くなっており、その辺の改善は難しい。下水道料金を上げるしかないかもしれないが、市民の反対が相当あるのでは？

(事務局) 水道事業も下水道事業も使用料だけではやっていけないため、借金や一般会計の税金を投入してやりくりしている。民間委託や合理化、統合など色々な手法でコスト縮減や効率化を図ろうと考えているが、当市にとってどの手法が良く、市民負担がどれくらいなら許されるのかというようなことも含め、今後意見を頂戴していきたい。

(委員) 参考までに聞くが、前平のバイオマス発電所の電力は使えるのか？

(事務局) 地域の電力として使おうという計画はあるが、特段に契約があるわけではないので分からない。地産地消という面では、そういった電力を活用するのも一つの手ではあると思うが、ダムで発電する電力より安いのかどうかは検討の余地がある。

(委員) 対策案の最後に「広域化」とあるが、具体的なイメージは？

(事務局) ここで言う広域化は、岐阜県の下水道広域化計画の中で当市が今後検討するもので、農業集落排水を蜂屋川公共下水道や流域公共下水道に繋いだり、富加特環に繋いだりしてはどうかというもの。実際にできるかどうか細かい部分の精査や調整が必要。

(委員) 4ページとか5ページの中で、最も有力なところはどこか？

(事務局) 稲辺クリーンセンターを蜂屋川クリーンセンターに切り替えて繋ぐもの。距離が短く、検討を始めている。

(委員) 県の計画とは関係ないところか？

(事務局) 県の計画にも載っている。県の計画では、今の処理場をできるだけ減らし、各務原の浄化センターで処理するという計画だが、すぐには無理なので、将来的にどうするかを短期、中期、長期と分けて書いている。

(委員) これからどの市町村もダウンサイジングに向かう必要があるが、簡単にできるものではない。10年先、20年先にこの地域の処理場はどこかに統合しようというようなことを、これからここで議論すれば良いと思う。

4 会議録署名者の指名

議長より、会議録署名者2名（佐藤委員、山岡委員）を指名。

5 その他

事務局より、能登半島地震に対する職員派遣状況について説明。

《意見・質疑応答（抜粋）》

（委員）応急給水とかは、日本水道協会が支部ごとに割り当てるなど組織的に
行う中で、最初の高岡市への派遣は、市長同士のヒューマンネットワークによる自主的なものか？石川県に比べると被害も比較的少なかったわけだが、そういった支援から漏れそうなところに手を届かせるという配慮からか？

（事務局）そのとおり。

（委員）中能登は、県水の復旧が割と早かったと思うが、下水道が復旧しないまま、逆に水道の使用制限などは無かったのか？

（事務局）水道の使用制限という話は無く、普通にトイレも使うと聞いた。管が繋がっていればマンホールに溜まって下流に流れるが、あまりに溜まればバキュームで汲む必要もあると思う。

閉会の前に一点お願いがあるが、来年度の経営審議会は、経営戦略の関係で回数を増やしてお願いしたい。

また、水道事業でコロナ対策として7月～9月分、物価高騰対策として12月～1月分の使用料について基本料金を減免しているので報告させていただく。

6 閉会